

平成 30 年度サービス第三者評価結果（公益社団法人 全国有料老人ホーム協会）

法人名	一般財団法人日本老人福祉財団		ホーム名	伊豆高原ゆうゆうの里		ID	3003	
評価機関	京都府認知症グループホーム協議会				評価日	平成30年12月11日		
スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価
1.1.1	A	A	2.3.3	A	A	6.1.2	A	A
1.1.2	A	A	2.3.4	A	A	6.1.3	A	A
1.1.3	A	A	2.3.7	A	A	6.2.1	A	A
1.1.4	A	A	2.3.6	A	A	6.2.2	A	A
1.2.1	A	A	2.3.7	A	A	6.2.3	A	A
1.2.2	A	A	2.3.8	A	A	6.2.4	非該当	非該当
1.2.3	A	A	2.3.9	A	A	6.2.5	A	A
1.3.1	A	A	2.3.10	A	A	6.2.6	A	A
1.3.2	A	A	2.3.11	A	A	6.2.7	A	A
1.3.3	A	A	2.4.1	A	A	6.2.8	A	A
1.4.1	A	A	2.4.2	A	A	6.2.9	A	A
1.4.2	A	A	2.4.3	A	A	6.3.1	A	A
1.4.3	A	A	2.4.4	A	A	6.3.2	A	A
1.4.4	A	A	2.4.5	A	A	6.3.3	A	A
1.4.5	A	A	2.4.6	A	A	7.1.1	A	A
1.4.6	A	A	3.1.1	A	A	7.1.2	A	A
1.4.7	A	A	3.1.2	A	A	7.2.1	A	A
1.4.8	A	A	3.1.3	A	A	7.3.1	A	A
1.5.1	A	A	3.1.4	A	A	7.3.2	A	A
1.5.2	A	A	3.1.5	非該当	非該当	7.3.3	A	A
1.5.3	A	A	3.1.6	A	A	7.3.4	A	A
2.1.1	A	A	3.1.7	A	A	7.4.1	A	A
2.1.2	A	A	4.1.1	A	A	7.4.2	A	A
2.2.1	A	A	4.1.2	A	A	7.4.3	A	A
2.2.2	A	A	4.1.3	A	A	7.4.4	A	A
2.2.3	A	A	4.1.4	A	A	7.4.5	A	A
2.2.4	A	A	4.2.1	A	A	7.5.1	A	A
2.2.5	A	A	4.2.2	A	A	7.5.2	A	A
2.2.6	A	A	5.1.1	A	A	7.5.3	A	A
2.2.7	A	A	5.1.2	A	A	7.5.4	A	A
2.2.8	A	A	5.2.1	A	A	7.5.5	A	A
2.2.9	A	A	5.2.2	A	A	7.5.6	A	A
2.2.10	A	A	5.2.3	A	A	7.5.7	A	A
2.2.11	A	A	5.2.4	A	A	7.6.1	A	A
2.3.1	A	A	5.2.5	A	A	7.6.2	A	A
2.3.2	A	A	6.1.1	A	A	7.6.3	A	A

評価機関所見

◆優れた取り組みと思われる点	
スケールNo.	所 見
1-5-3	高齢者虐待防止への要件が厳しくなっている中、貴施設における組織的な取り組みは評価に値する。ゆうゆうの里全体方針としての取り組みであると推察できるが、虐待防止マニュアル・自主行動基準・運用規程を定め、さらに、年2回(1月・6月)「不適切ケアに関する職員アンケート」を全職員に向けて実施している。アンケートは全職員にフィードバックされている。当該アンケートにより、管理チームがホーム全体の不適切ケア発生の有無を認識することができ、半年ごとに意識改善の確認ができる仕組みとなっている。
3-1-7	エントランスロビーには、談話スペースが設置されており、全て自然の木の素材を使って造られている。細部にわたり木へのこだわりと、ぬくもりが感じられた。スペース中央を支える柱として、ホーム設立時から在った『ひめしゃらの木』を大切に使い、ホームの40年近い歴史を忘れないようにとの配慮がある。エントランスホール全体は、伊豆高原の木を思わせるしつらえで、施設をつくられた方々の思いが伝わってきた。
6-2-5	要介護1・要介護5の2事例を確認した。それぞれ丁寧にケアマネジメントの流れを踏まえて作成されている。自立入居の為、入居前の暫定プランは非該当になるが、入居途中からの要介護状態への移行については、「原案」(暫定)を作成し、随時サービス担当者会議を行い、PDCAサイクルに則って見直しが行なわれている。一部の計画作成担当者のプランでは確認できているが、データ保管のみならず、ファイル保管時にも「暫定プラン」であることを明確にされると良いのではと思う。プラン内容については、1表・2表ともに、詳細にわたる記載が確認できた。
7-5-4	重介護者約40名のうち、居室に引きこもり状態にある方について、リフレッシュへの取り組みとして、日々のアクティビティへの参加促進だけでなく、個別の外出機会をプランに組み込み、個別対応として個々の興味を探りだし、外出の働きかけを行っている。精神的活動も低下して日々ふさがちな重介護の方への外出提案により、確認事例ではネコカフェに外出することで、猫とともに過ごした元気な日々を回想されて、笑顔が甦った。介護度4・5の方に、その方に合った楽しみを探り、可能な限りケアプランにおいて個別対応を提示することで、ラストステージに楽しみを持って過ごして頂けるよう、配慮したケアの取り組みを確認できた。
7-5-5	週1回の全入居者に向けての「はつらつ体操」以外にも、専任PTによる個別機能訓練が実施されて、個別性重視の訓練メニューが組まれている。また、特筆すべきは伊豆高原ゆうゆうの里の立地条件で、建築物はすべて2階建てで景観全体に圧迫感がなく、自然の中で歩行訓練ができるコース設定をして、入居者自らが目標を設定できるようにあくまでも自然な形で支援している。さらには、自身の歩行力のお試しキャンペーンを組み、海辺の岩場・海岸沿いなど歩行力に応じて、挑戦できるよう工夫推進している。伊豆高原ゆうゆうの里は30年以上の入居者もあり、2階建ての水平に広がったホーム全体が一大コミュニティとなっている。自然環境を巧みに取り入れて、入居者の健康維持に寄与できることは、伊豆高原ゆうゆうの里の強みでもある。

◆さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点	
スケールNo.	所 見
2-4-2	<p>各種業務マニュアルが整備され、年1回の見直し部分は赤字で記載され、分かりやすくなっている。マニュアル全体像として、文書表記の内容が主流で視覚化（図・写真・グラフ）された内容が少なく感じた。高卒新入社員も毎年、数名迎えられているので、マニュアルの視覚化を一層進められると、初心者にもスムーズに理解できるのではないかと感じた。さらには、全ゆうゆうの里での様々な取り組みを活用し、法人統一マニュアルを作成されて、個別化として各ゆうゆうの里の独自マニュアルを追加作成されることで、マニュアル作成の省力化および、内容の充実化ができるのではないかとと思う。</p>
4-1-1	<p>伊豆高原ゆうゆうの里入居者のボリュームゾーンである、自立・準自立者約270名の生活相談業務として、生活サービス課が担う業務内容・業務範囲は棒大である。様々な案内や掲示物を確認でき、受付カウンターに自ら相談に訪れることができ、カフェテリアを定期的に使い、さらに生活サービス課が状態把握し定期訪問できている入居者についての危機感はほぼない。これら、全ての網から漏れているグレーゾーンの入居者に対する、積極的訪問・ニーズに関わらず定期的な全戸訪問等ローラー的な関わりが求められていると思う。自立者中心の大型有料老人ホームにあっては、このブラックホールを解消することが、第一段階の有効な危機管理になってくるのではないかと考える。現段階で必要な対応は充分に実施されている上の、さらなる積極的介入となると人員の問題・受ける側（お客様）の心証への配慮もあり、難題ではあるが必要なサービスが実現できているからこそ、是非ともチャレンジして頂きたいと思う。</p>